

<当日配布資料16ページ中の4ページのご紹介>



日本スーパーマーケット協会 「総務・消費者委員会」の勉強会

万引防止対策 ～決め手は、防犯基準と情報の共有化～

日時 24年9月28日(金) 15:45 ~ 16:45
場所 日本スーパーマーケット協会会議室

特定非営利活動法人
全国万引犯罪防止機構

普及推進委員 稲本義範

【事例研究】

大量万引きグループのかごダッシュ手口



平成20年8月から平成21年6月の10ヶ月間で456件の大量万引きを行った組織が逮捕されました。関東及び新潟県で高速道路を利用しながら1日平均20件ほどの店舗で万引きを犯していた。かれらの手口は、

- ①お客を装い金属カートに高額商品を集め
- ②出口に近いところにカートをしばらく置く
- ③店員が来ないことを確かめ
- ④カードを押しながら店頭の商品を見に行く
- ⑤店頭の商品をしばらくながめ
- ⑥店員に気づかれていないことを確かめて
- ⑦車の後方ドア(ハッチバック式)を開け、カートの商品を積み込む
- ⑧車で逃走

③⑥時点で店員に声を掛けられた場合は、「他の商品を見たかったので」「店頭の商品を見たかったので」と言い訳をして、その店では万引きはしなかったそうです。犯人たちは「EAS(商品管理システム)が発報しても従業員が対応しないケースが多い」または、「ゲートが反応しないこともあった」と証言しています。つまり、EASの動作確認や発報時の対応訓練を日ごろから行っておくこと大切です。カゴダッシュと言葉から想像すると走って逃げるイメージがありますが、実際には手順を踏んで店外に商品を持ち出します。

近隣の同系列店においても根こそぎ被害に遭ったため、企業間で窃盗団情報の共有化を図りました。被害があった場合に近隣店舗は互いに携帯でメール情報共有するようになりました。

何が不明ロスを改善するのか



第6回全国小売業万引被害実態調査報告書より ～調査項目と不明ロス率の相関関係～

- ◆地域の巡回ボランティアの受け入れている企業は、そうでない無い企業の不不明ロス率のほぼ2/5である。
- ◆棚卸を頻繁に行っている企業は、そうでない無い企業の不不明ロス率のほぼ1/2である。
- ◆万引を考慮したレイアウト修正の実施企業は、そうでない無い企業の不不明ロス率のほぼ1/2である。
- ◆お客様への積極的なお声掛けを実践している企業は、そうでない無い企業の不不明ロス率のほぼ1/2である。
- ◆万引防止の研修をしている企業は、そうでない無い企業の不不明ロス率のほぼ1/2である。
- ◆朝礼等で万引防止を話している企業は、そうでない無い企業の不不明ロス率のほぼ3/4である。
- ◆万引防止システム(EAS、防犯カメラ)を導入している企業は、そうでない無い企業の不不明ロス率のほぼ3/4である。
- ◆通報ルールが簡略化されてたこと知っている企業は、知らない企業の不不明ロス率のほぼ3/4である。
- ◆万引マニュアルの店舗配置、店内放送を実施している企業は、そうでない無い企業の不不明ロス率より2割程度不明ロス率が低い。

全国各地の万引防止対策の取組みの報告と意見交換会(越谷レイクサイドの対策の事例等)
<http://www.manboukikou.jp/pdf/topic98.pdf>

安全、安心、地域愛のある社会の実現



万引対策の新たな視点(原点回帰)

万引犯罪に対する各県の考え方・取組みから、新たな視点が醸成されつつあることが分かります。

【基本認識】		【新たな視点】
疑わしきは罰せず	⇒	疑わしきは迷惑行為
司法判断	⇒	社会&業界ルール
加害者人権の重視	⇒	被害者人権の尊重
捜査活動	⇒	社会安全対策
利益改善	⇒	規範意識向上のための社会奉仕活動
万引犯VS店員	⇒	万引犯VS社会総ぐるみ
寛大な対処と諦め	⇒	不正を正すことを諦めない
応酬的正義	⇒	修復的(対話型)正義

<セキュリティ産業新聞2月10日号>

地域の取組み事例の活動「福岡県万引防止連絡協議会等」より

<http://www.manboukikou.jp/pdf/74.pdf>

言葉の変遷: 同心(一致団結という意味)⇒定廻(じょうまわり)⇒「おまわりさん」になる。